私達は常識を備えている。その常識は、専門家の判断を正しいと認識するように私達に命じている。その命を疑わないことで日々の生活を滞りなく過ごすことができる。それが、本書を一読することで一変した。

目次をみると、中学の理科で習ったミトコンドリアが出ている。私はその名称を覚えていただけで,細胞内の一組織だと言うことだけであった。ジョンズ・ホプキンズ大学のペーター・ペダーゼン教授らの研究によると、正常細胞とガン細胞の、ミトコンドリアによる細胞の酸素呼吸の比較がされている。正常細胞では呼吸90%　解糖10%に対してガン細胞では呼吸40% 解糖60%ということだ。このデータを見れば、ミトコンドリアの機能の制御でがん治療が可能であると考えるのが当然だろう。

ところが大多数の医師は私のように常識人であるらしい。「ガンは悪性腫瘍」という常識の世界にとどまっているようだ。本書の著者は「常識の世界」を離れたコペルニクス的視点から見たのでる。ミトコンドリアの機能を制御してガン細胞を悪性腫瘍ではない元の細胞に戻せるというのである。小林博士は血液と尿検査だけでがんになる7～8年前からガンの予知が可能な検査方法（TMCA）を開発し、近代医療で見放されたガン患者を7000人以上救ってきた。

しかしコペルニクスの地動説も天動説を覆すには長い年月がかかったように、小林博士のユニークな研究も、常識にとって代わって新事実と認められるまでには相当時間がかかるかも知れない。

小林博士の治療で益々多くの人々が救われることを望む。

武内光路　　哲学者・塾経営